

■ ふるさと教育に関する教育の推進

★活動に関連する目指す子ども像

「よく考えて工夫する子ども」「心が豊かで仲良く助け合う子ども」「丈夫な体と強い意志をもつ子ども」

□ 活動の概要



児童が教科等横断的な学習を通して、主体的に学ぶ意識を高めることをねらいとして、令和5年度から、美唄市の基幹産業である農業に関する学びを計画的・継続的な取組として教育課程に位置付けるほか、地域人材や資源、企業と積極的に連携し、カリキュラム・マネジメントの充実を図っています。

□ 活動の具体

- ・第3学年では「アスパラガス」を題材に「JA美唄」の出前授業や農家訪問、第4学年では「ハスカップ」を題材に収穫体験やジャムづくりを行うなど、商品開発やプレゼンテーションを通して、探究的な見方・考え方を働かせ課題を解決するための資質・能力を育てています。
- ・第5学年では田植えや稲刈り、脱穀、第6学年では美唄市の可能性を探るため、雪蔵倉庫見学などの雪を活用した工夫を学ぶことにより、自分たちの生活に生かそうとする態度を育てています。

□ 教育課程上の工夫

- ・探究的な学びを継続的に行うために、小・中学校9年間を見通した総合的な学習の時間等の計画一覧表を適宜、各学年の教員が加筆・更新しています。
- ・地域とともに必要な資質・能力の育成を目指すため、中学校区で学校運営協議会を立ち上げ、目指す子ども像を地域と共有しています。